

# 令和6年度 園の自己評価および学校関係者評価

ひしのみこども園では、教職員と保護者のみなさんに、「ひしのみこども園の教育と保育及び運営」について、アンケート調査を行い、それに基づいて、園の自己評価を行いました。また、自己評価の客観性を高めるために、学校関係者評価委員会を設け、部外者評価を実施しました。  
この貴重な結果を大事にして、令和7年度に臨みたいと思います。

令和7年3月 ひしのみこども園長 江頭 一寛

## 1. 園の保育と教育の目標

「子ども一人ひとりの主体的、創造的活動を促すとともに集団生活をとおして、思いやりの心や社会性を身につかせ、生きる力の基礎を培う」

## 2. 求める子どもの姿

優しく	賢く	逞しく
<ul style="list-style-type: none"> <li>感性豊かな子</li> <li>協同して遊び互いに尊重する子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創造性豊かな子</li> <li>知的好奇心に満ちた子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで運動する子</li> <li>食事を楽しむことができる子</li> </ul>

## 3. 保育と教育の方針

- 子どもが進んで身体を動かして遊びを楽しむような環境づくりをする。
- 遊びの中で芽生える疑問や知的好奇心、文字や数量に対する関心などの、知的発達を促す場づくりをする。
- 保護者と連携し、日常生活における基本的な生活習慣が身につくように努める。
- 園内外における自然体験や社会体験を通して、豊かな感性や表現力を育てる。
- 野菜の栽培や生き物の飼育を通して、生命の神秘にふれさせ、また自然の恵みに感謝する気持ちをもたせる。
- 意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、給食との関連を図り、楽しさと同時に食事のマナーを身に付けさせる。
- 園の内外における園児の安全と安心の確保のために細心の配慮を心がける。
- 身近なエコ活動を通して、身の回りの自然や生活への関心を深める。

## 4. 評価

自己評価の基準		関係者評価の基準	
A 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、90以上 B 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70以上 C 職員評価の平均値と保護者評価の平均値を平均し、その値が、70未満		A 園の自己評価を納得できる B 園の自己評価を大体納得できる C 園の自己評価をあまり納得できない D 園の自己評価を納得できない	
領域	評価の観点	自己評価	関係者評価
運営の体制	1. 教育・保育の充実	A 園内研修を全正規職員が講師を招聘し行い、指導の工夫・改善に努めてきた。保育参観等で我が子が生き生きと遊びに興じる姿を見て、保護者の方にも現行の教育・保育のあり方の理解も進んできている。	A ・先生方は熱心に研修もされている。今後時間の確保をどうしていくか課題。 ・評価項目が学習指導要領を受けたかたちとなり良いと思う。 ・遊びを通して主体性を大切にしているところが良い。 ・園の評価に納得できます。
	2. 施設・設備の活用	A 老朽化した総合遊具を8月に撤去したが、その際の今後の園庭の活用についての保護者への周知がまだ十分でないところもある。未満児については活動の様子が分かるよう連絡ノートを活用したい。	A ・遊具については撤去の意図や利点を保護者へ。 ・遊具の設置は今後ない園庭の活用を行う。 ・園庭やホール等、有効に活用されている。 ・園の評価に納得できます。
	3. 危機管理・安全管理	A 毎月の様々な避難訓練や、定期的な安全点検及び連絡会での職員の共通理解を進めてきたことで、危機管理意識が高まり、安全教育の充実を図ることができた。	A ・毎月の避難訓練の実施は大変ですが価値ある取り組みです。 ・子どもたちが安全に過ごせるように指導されている。 ・園の評価に納得できます。

	4. 信頼・連携	A	安心して相談できるような体制・環境作りにも努め、保護者との信頼関係はできていると思う。また、日々の送り迎えの時に担任ができるだけ保護者と言葉を交わすように努力を続けていきたい。	A	・保護者は我が子の頑張りや成長を聞くと嬉しいものである。その一言を意識することで保護者の子ども理解も深く良くなると思う。 ・園と保護者が密に連絡を取り合っている。
日 々 の 保 育	1. 道徳性の涵養	A	日々の保育の場面で、トラブルが起きたときに、個々の特性に応じた指導を努めているが、保護者の方にとどこまで伝えるべきか迷う点もある。未満児については、その状況をどのように保護者に伝えていくかが大きな課題と考えている。	A	・子どもの実態を踏まえた項目の内容変更は適切だと思う。 ・思いやりの心を育んだり道徳性を育むよう努めている。
	2. 生活習慣の育成	A	個々の成長に合わせて少しずつ基本的な生活習慣が身につくように見守りながら指導・支援を心がけてきた。できるだけ、送迎の時にできるようになってきたことを伝えるよう心がけてきた。	A	・保護者との連携を密にし、指導・支援されている。 ・園の評価に納得できます。
	3. 健康・安全指導	A	個々の健康情報や園内での感染症の情報提供、発育測定、健診の結果報告を通し、保護者との情報共有に努めた。また、給食や保健便りの配布により健康・安全面での啓発も努めている。	A	・健康・安全面でしっかりと指導されている。 ・園の評価に納得できます。
	4. 遊びを通じた指導	A	子どもが自ら様々な遊びを創造していけるように、自然物や各種用具や廃材的な人工物などを準備し、環境の整備を進めてきた。幼児期に必要な体験ができるよう努めていく。	A	・遊具がなくなった分、先生方の環境作りで遊びが広がったことを保護者へ伝えて欲しい。 ・遊びを通して興味・関心を引き出そうと指導されている。 ・園の評価に納得できます。
	5. 幼小の接続	A	多久中央校と幼保小連携会議や1年生との交流の場、1年担任との情報交換会を計画的に行ってきた。子どもたちは入学へ期待と安心感をもっていけるものと考えている。	A	・中央校との連携を密にし連携をしっかりとされている。 ・園の評価に納得できます。
地 域 と の 連 携	1. 身近な人々との かかわり	感染症対策の一環として、地域の方との交流はできない行事があった。(評価対象外)			
	2. 食育の推進	A	給食便りを通じて食育について、また季節の食材(旬の野菜)の活用など保護者への広報を充実した。しかしながら、個々の成長の違いから食事マナーについて今後も取り組んでいきたい。	B	・食事マナーについては家庭の協力が必要不可欠だと思います。 ・家庭の実態把握が難しい項目だと思います。 ・食育だけの講演会とか行っていますか？ ・食育について給食便り等で連携されている。
	3. 生命の大切さに気付く 環境作り	A	昆虫を中心とした飼育や園庭で見られる昆虫以外の生き物との関わりを日々の遊びで大切にしてきた。また小動物の飼育、野菜や草花の栽培などの体験を通して、自然とのかかわりを大切にしてきた。	A	・自然との関わりを大切に指導されている。 ・園の評価に納得できます。
	4. 読書の大切さと啓発	A	毎日の読み聞かせで、絵本のおもしろさを引き出し、子どもが自分の世界を膨らませ、文字への興味にもつながっている。また以上児には絵本の貸し出しも行い絵本に親しませる機会を増やしている。	A	・家庭内での絵本読みがないケースもあり家庭での絵本のすすめの啓発も必要と思う。 ・家庭との連携の大切さと啓発の難しさがある項目ですね。 ・読み聞かせ等の指導が充実している。 ・園の評価に納得できます。

5. 開かれたこども園	A	<p>保育参観や園主催の行事については、年間計画に沿って開催を行い、保護者参加の人数の制限をなくし、園の教育活動や子どもたちの様子を十分に参観していただけるようにした。各組の保育計画や各種連絡、給食献立表などはスマホアプリで閲覧できるかたちで遺漏なく送信を行った。園生活や教育活動の周知についても紙媒体や園ホームページへの掲載などに努めた。今後も、園のホームページ(ひしのみブログなど)の充実を図ってきたい。</p>	A	<p>・園の方針や活動が広く理解されている。コロナなどで行事が中止になったものもあり「わからない」と答えた人がいたのでは。 ・園の行事等充実しておりホームページもうまく活用されている。</p>
-------------	---	--	---	--

#### 5. 関係者委員会のコメント

○保護者が園を信頼され、安心して子どもを預けられていることが評価結果から伝わりました。素晴らしいと思います。これも先生方が日々、子どもたちに愛情を持って接し、よりよい保育を目指し研修や話し合いをされ、保護者に共感し適切なアドバイス等に努められているからでしょう。

○「とてもそう思う」と「ややそう思う」が「思う」でひとくりりにされていますが、点数化していくと、同じ100%Aでも、特に良いところ、今後、力を入れていきたいところ等がわかると思います。

○子どもへの保育だけでなく保護者支援もますます大きな役割になると思います。すべき事がたくさんでなかなか先生方同士がゆっくりと語り合う時間が少ないことでしょう。しかし、限られた時間の中で、情報交換したり子どもの成長を共に喜び合われたりしている姿に、素晴らしいと感心しています。園長先生を中心にこれからも、チームひしのみで頑張ってください。

○各々の評価項目について具体的な取り組み内容が設定されており指標も示されている。

○職員の自己評価結果を見ると高い評価結果になっている項目が多く、職員間で取り組み内容が共有され実践されていることが伺える。

○学校でのSNSの利用が年々低年齢化している傾向にあり、いじめ、問題行動等のトラブルの原因になるケースが増えている状況である。園児のSNS利用、スマホ等の利用が気になるところである。

○SNSの普及に伴い、学校でも子どもたちの読書離れが進んでいることが感じられ、幼少期における読書や読み聞かせの習慣が大切になっていると感じる。

○学校においては職員の業務改善、働き方改革の評価項目の設定が必要となっているが園での取り組みはどのような状況でしょうか。

○園長先生はじめ先生方が、子どもたち一人一人に寄り添い、保育目標に沿って自主性・安心感・協同性・意欲、感性に取り組んでおられる。

○保護者への理解を深める努力は高く評価できると思います。

○保護者・職員ともに評価が高い。信頼されているこども園ということが伺えます。大変素晴らしいと思います。コロナの時期は、保護者との関係づくり大変だったと思います。コロナ前に戻り、さらに園児の成長・育成のために努力を続けられることを望みます。

○「分からない」が少々見られる。より保護者に分かりやすい事例を増やすと保護者の理解も進むと思います。

○食育の推進「給食便り」やホームページ等をさらに充実していったらいいと思います。

○子どもを預けることに安心を覚える保護者は多いと思う。園児も生き活きとしていて、この園で生活できる子どもたちは幸せだと感じる。職員は忙しく大変だと思うが、負担軽減も含め、どんどん新しいことを取り入れ工夫し、よりよい園づくりを目指してほしい。

○保護者が園に求めてきたこと、園がこれから目指していくこと、何より子どもたちのためになること、双方向の目標が一致するのは困難であると思うが、少しずつの工夫の積み重ねがより素敵なひしのみこども園を作り上げていくと思います。

○園の先生方の子どもたちへの愛情が良く伝わってきます。今後とも子どもたちが生き活きと楽しく過ごすことができるようにご指導よろしく願います。

## 6. 総合評価と次年度への課題

今年度は昨年同様に、感染症対策を行いながらコロナ禍以前と同様に保護者の参観数の制限を一切行わず、各種行事を実施してきました。また、日々の教育・保育活動も「遊びは学び」という基本理念を具現化すべく、外部講師を招き園内研修等を通して研鑽を積み、子ども一人一人の成長や発達を促すことに努めて参りました。これらの日々の取り組みについて、園便り、クラス便り、園ホームページを活用し、園の教育・保育活動の啓発・周知にも努めました。なお、園外研修(オンデマンド、リモート、ズーム等含む)にも参加し、研鑽を深め、個々の先生方自身でもスキルアップに努め、本園の乳・幼児教育の質の向上に繋がっていると考えます。

自己評価アンケート結果では、今年度も昨年度同様、すべての項目(13項目)がA評価でした。(ただし、「身近な人々とのかかわり」は、感染症対策の一環として地域の方との交流ができませんでしたので評価対象から外しました。)しかしながら、「食育の推進」については、関係者評価委員の方からは、B評価をいただきました。次年度に向けて、日々の給食についてホームページへの掲載、食育に関する講演会開催など課題解決に取り組んでいきたいと考えます。一方、昨年度の関係者評価委員の方から、質問内容変更が望ましいと指摘された、運営体制「4信頼・連携」、日々の教育・保育「1道徳性の涵養」については、より保護者の方に取り組みがより具体的に分かるように変更し「わからない」の回答は減ったもののまだ改善していく必要性を感じた。

関係者評価委員の方からは、全般的に保護者から本園の教育・保育活動は十分に信頼されていると考えますが、これからさらに予測が困難な時代に向かっていくので、それに対応する資質・能力を形成する一端がこども園であることを理解した上で、園の改善と充実を今後も目指して欲しいとのご意見をいただきました。また園評価アンケートについて、より改善点が見いだせるように最終考察段階では、点数化等の集計に基づいた方法も良いのではないかとご意見もいただいたので、来年度の課題としたいと思えます。

これからも「やさしく、かしこく、たくましい」ひしの子どもの成長を願って、「情報発信」・「コミュニケーション」・「情報共有」をキーワードに様々な工夫・改善を図り、各種の課題解決と共にひしのみこども園の“教育・保育”の質の向上を図っていききたいと考えます。